

英語 授業づくり講座 ～大豊町立おおとよ小学校～

「おおとよ小学校思い出の給食メニューを作ろう」

発行
令和3年1月7日
中部教育事務所



単元 第3学年 Let's Try! 1 Unit 5 「What do you like? ～おおとよ小学校思い出の給食はこれ～」

領域別目標

「話すこと [やり取り]」

ウ サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりするようにする。

CAN-DO リスト形式での学習到達目標

「話すこと [やり取り]」

ウ 自分のことや相手、身の回りのものについて、サポートを受けながら質問をしたり答えたりしている。

単元目標

「おおとよ小学校思い出の給食メニュー」を作るために、相手に伝わるように工夫しながら給食メニューについて、好きなものを尋ねたり答えたりして伝え合う。

単元計画 (全4時間 本時3時間目)

※事前に、おおとよ小学校の給食がどのように作られているか、栄養教諭から話を聞く。

時	主な学習活動	評価
1	<ul style="list-style-type: none"> ・HRTとALTのやり取りを聞き、What～do you like?の意味を推測する。 ・単元のゴールを知る。 ・カテゴリー別に給食メニューの言い方を知る。 ・友達と好きな給食メニューについて尋ね合う。 	※第1時及び2時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・友達に好きな給食メニューを尋ね、ワークシートに聞き取った内容を記入する。 	
3	<ul style="list-style-type: none"> ・大豊町内の先生方に好きな給食メニューを尋ね、ワークシートに聞き取った内容を記入する。 	話すこと[やり取り] 【知技】【思判表】【態度】
4	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに聞き取った内容をもとに「おおとよ小学校思い出の給食メニュー」を作成し、全体で交流する。 	話すこと[やり取り] 【知技】【思判表】【態度】



授業者 宮田 正志 教諭



単元終了後

栄養教諭や給食センター、食材を提供している地域の人に、思い出の給食メニューと共に感謝の気持ちを伝える。

中間評価では、活動中に困ったことを確認するとともに、工夫して話している児童を取り上げて全体共有し、相手に伝わるように工夫することのイメージを具体にもたせる。

総合的な学習の時間「地域の特産品」、特別活動「食に関する指導」、道徳科「この一食のために」など、他教科等とも関連づけて指導をおこなっている。

本時の展開

	学習活動
1 Small Talk	教師が「思い出の給食メニュー」について話す内容を推測しながら聞く。
2 Today's Points	単元ゴールと今日のめあてについて、目的や場面、状況を確認する。
3 Chant	Food Chant を練習する。
4 Activity1	好きなメニュー (food) を先生に尋ね、ワークシートに記録する。
中間評価	
5 Activity2	好きなメニュー (drink と dessert) を先生に尋ね、ワークシートに記録する。
6 Reflection	振り返りシートに記入し、全体で共有する。

教材研究会

令和3年8月27日オンライン開催

教材「What do you like?」について2チームから単元構想を提案
 チーム①「大豊学園お祝いメニューを作ろう」
 (好きな給食についてのインタビューをもとにお祝いメニューを作成)
 チーム②「みんなのことをもっと知ろう」
 (インタビューをもとに友だちなりきりクイズを作成)

【協議の柱】

- ◇小・中9年間の学びの連続性を意識した単元構想となっているか
- ◇児童の主眼的な思考、豊かな表現のための手立てが適切であったか

今後の取り組み

大豊ならではの小中をつなぐ1本の軸を子ども目線で具体化する

単元構想について ～直山木綿子視学官より～

- 児童の実態に合った目的や場面、状況等が設定されている。
- Small Talk など、単元計画がゴールの達成に向かって計画的に設定されている。
- ねらいの提示の仕方が、子供の思考を働かせられるよう仕組まれている。
- 栄養教諭など、学級担任以外の教職員を活用している。
- 大豊学園に向けて「9年間の学びの連続性」の軸が明確に見えるものとなることよい。

授業研究会

令和3年10月21日開催



講師 文部科学省 直山 木綿子 視学官

授業づくりのポイント～直山木綿子視学官より～

①小・中9年間を見通して付けたい力を育成する

3年生で好きな給食メニューについて学習したことが、高学年や、中学校での外国語や総合的な学習の時間等の学習を通して、徐々に大豊の地域理解や地域のPRへと広がっていくように、小・中9年間を通して目指す姿に導くカリキュラム・マネジメントが大事である。外国語学習を通じて、母国の言語や文化についても理解を深めさせたい。

②言語活動を通して指導する

知識・技能は言語活動を通して身に付いていく。単元の1時間目に、新しい言語材料の言い方を練習させて終わらせるのではなく、「友達と好きな給食メニューについて尋ね合う」など、1時間目から言語活動を設定し、単元を通して繰り返すうちに、生きた知識・技能として慣れ親しませることが大切である。

③コミュニケーションの目的を意識させる

思考力・判断力・表現力を育成するためには、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を、子ども達に意識させて言語活動を行うことが大切である。授業の初めに確認するだけでなく、中間指導でも再度、活動の目的を迫及する。例えば本時なら、栄養教諭や給食センターの方たちに「思い出の給食メニュー」を伝えるためには、どんなことが大切なのか児童に考えさせ、聞き返したり、確認したりして、正確に情報を得ることが有効であると気付かせたい。児童にやらせてみて、引き取って、指導して、再度やらせてみる大切である。

参加者の声

「自分との対話ができている子どもは、周りに目を向けることができない」という直山先生の言葉が印象的だった。外国語に限らず、全教育活動で大事にしたい。

宮田先生が真摯に英語と向き合い、日常的に取り組んでいるからこそ、子ども達も英語の世界に喜んで浸っていき、英語が話せるようになるのだと思った。

外国語の学びを母語へ返すことや、外国語教育を通して、目的・場面・状況に応じて思考できる子どもを育てることが重要だとわかり、指導の目的が明確になった。